

ADVANCE

TOYOTA TECHNOLOGICAL INSTITUTE

豊田工大だより 2012. June

Vol. 86



豊田佐吉翁胸像前で意欲に溢れた新入生たち

Contents

2011年度 卒業式・修了式.....	2~3
卒業・修了生にインタビュー 内定獲得の秘訣.....	4~5
2011年度 卒業・修了生の進路状況.....	6
2012年度 入試状況、オープンキャンパス日程.....	7
2012年度 入学式.....	8
7年ぶりにカリキュラム改訂.....	9
開学30周年 記念講演会を開催.....	10
News File、人事紹介.....	11
受賞.....	12

【行事予定(7月~9月)】

- 7月21日 保護者対象説明会
- 7月25日~7月31日 修士前期定期試験
- 7月27日~8月2日 学部前期定期試験
- 8月1日~9月25日 修士学外実習
- 8月3日~9月9日 学生夏期休暇
- *教職員夏期休暇は8月8日~21日
- 8月25日~8月26日 オープンキャンパス
- 9月15日~9月16日 天樹祭(大学祭)、オープンキャンパス
- 9月21日 後期授業開始

2011年度 卒業式・修了式

～ 117名、未来に向かって～



サーウィンストンホテルにて

2011年度卒業式・修了式が3月22日、本学講堂にて挙行された。工学部卒業生は82名（専修プログラム45名、総合プログラム37名）、大学院工学研究科（修士課程）修了生は33名、博士学位取得者は2名、計117名が巣立っていった。

初めに榊裕之学長から、学部の代表として高橋良彰君（岐阜県立大垣東高等学校出身）と木村文彦君（私立鶯谷高等学校（岐阜県）出身）に、修士の代表として福澤順君（愛知県立豊田高等学校出身）に学長から学位記が授与された。また、博士後期課程学位取得者のKaewkan Wasanasukさん（タイ出身）、David Michael TEX（オーストリア出身）さんについて、学位取得論文題目と併せた紹介が行われた。

榊裕之学長は「本学で会得した『学ぶ手法』と自身の頭で考える習慣を通じ、自らの専門的能力を今後も高め続け、技術者として隣人や社会にどう貢献できるかを常に考えてほしい。自身がなすべき使命を見出し、それを行動の指針として活躍されること祈念する」とメッセージを贈った。



学位記を授与される高橋良彰君

また、昨年6月の就任後、初の卒業式・修了式となった学校法人トヨタ学園 瀧本正民理事長から、自身の体験を踏まえた祝辞が贈られた（次ページ参照）。

続いて、来賓を代表して小島プレス工業株式会社取締役社長 小島洋一郎氏は「激動の時代を生き抜くためには、環境変化への対応が必要。常に自分の夢を持ち、絶対に諦めない強い信念を持ち続けてほしい」と激励した。

在学生代表の白石裕次郎君（学部3年/ダイキン工業株式会社）は、卒業生との思い出と感謝の気持ちをつづった送辞を述べた。卒業生を代表して池田朋之

君（小島プレス工業株式会社）は、大学生活での経験と成長を振り返り、修了生を代表して小林由幸君（愛知県立豊橋東高等学校出身）は、研究に打ち込んだ日々とその教育環境の素晴らしさについて、謝辞を述べた。



小島プレス工業株式会社取締役社長 小島洋一郎氏

最後に、豊田奨学基金賞の授与が行われ（P12参照）、厳かな雰囲気の中、式典は終了した。

式典後には卒業・修了生主催による謝恩会がサーウィンストンホテル（天白区八事）にて開催された。卒業・修了生を祝いに在学生・教職員が集い、厳肅な雰囲気から一転し、卒業生らは学生生活最後の夜を満喫した。



学位記を受け取り、榊裕之学長と握手する福澤順君



瀧本正民理事長からの祝辞 「問題は困難なほど、解決能力は磨かれる」

【トヨタ自動車株式会社 相談役、株式会社豊田中央研究所 代表取締役】

これから社会に出て活躍される皆さんにとって、必要となるのは課題解決能力です。そのためには問題の本質をしっかりと捉え、その問題をブレイクスルーする創造的な取り組みが求められます。本学での現地現物を重視した学びにより、その力を皆さんは十分に蓄えられていると確信しています。

私のトヨタ自動車での体験から言えることは、創造的な課題解決能力は、立ちどころ問題が困難であればあるほど磨かれる側面があると感じます。

例えば、昭和40年代後半に世界全体で大気汚染、その直後に石油ショックが起こり、大変な社会問題となりました。その解決策の一つとして、自動車業界には大変厳しい排ガス規制と燃費規制が課せられ、関係者は昼夜問わず、頭脳と体力の続く限り問題解決に向けた試行錯誤を繰り返す必要がありました。

結果的に、排ガス浄化のための三



元触媒システム、燃料噴射のエンジン、電子制御システムなど、当時では革新的とも言える技術を生み出し、難局を乗り越えることができました。この時に生まれた革新技術のおかげで、日本の自動車の世界の様々な市場で、排出ガスや燃費の面で高く評価され、世界で存在感を示す大きな原動力となりました。

課題解決能力には地道な研究開発の積み重ねや、実体験で得られる知識・経験の蓄え、また常に疑問をもって学び続ける努力が極めて大事だと思います。現場で物を見る、手で触れ、目で見て確かめることを大切に、高い志を持ち、何事にもひるまずに挑戦する技術者・研究者となり、これからの日本を支えていってください。

卒業・修了生にインタビュー 内定獲得の秘訣

新卒者の厳しい就職状況が報じられる中、2011年度も就職決定率100%を達成した豊田工業大学。内定を勝ち取り、春から新社会人となった3人に、就職活動を振り返っての成功の秘訣や後輩へのアドバイスについて聞いた。

「志望動機を明確に」

私が就職活動において重要だと考えることは、自分自身の志望動機の原点（軸）を明確にすることです。私は、車の運転中や道を歩いている際に何度も危ないと感じた経験から、「障害物検出という自身の研究を生かして、交通安全に携わりたい」という志望理由を軸として、就職活動を行いました。この軸に合致している会社であれば、エントリーシート作成も面接も、勢いに乗って進めることができたと感じています。



佐藤 航
アイシン精機株式会社に就職
私立愛知高等学校出身
情報通信研究室（修士）
研究テーマ「低解像度レーザ
レーダを用いた障害物検出」

一方で、この軸にあまり合致していない会社を受けようとなると、志望理由を書くことに苦勞し、また面接でも様々な場面で詰まるなど、非常に不自然な受け答えになってしまいました。

以上の経験から、志望動機を明確にし、就職後に何をしたいのかをきちんと考えておくことが重要だと思います。

“豊田工業大学で良かった”と感じたことは？

学外実習が必修科目となっていますが、学部・修士を通じて計3回の学外実習を経験したことにより、工場や研究開発の現場で働く姿をはっきりとイメージできたことが非常に良かったと思います。この経験が、会社選びや業種選びにおいて、それほど迷うことなく自分の方針を決めることにつながりました。

就活の必須ツール：スマートフォン

予定管理や面接先までのルート検索、出先での説明会・面接予約などがスムーズにでき、非常に役立ちました。



「志望動機は身近なところに」

私は幼い頃に阪神・淡路大震災を経験したこともあり、以前からインフラへの関心を強く持っていました。日本のインフラ設備は世界に誇る高水準だと思いますが、震災時のように機能が停止した時の不便さは計り知れません。暮らしを支えるインフラ設備をさらに充実させ、人々の暮らしを蔭から支えたいと、東日本大震災をきっかけに改めて強く思い、自分の進むべき道を決めました。



相坂 真樹
三菱電機エンジニアリング
株式会社に就職
私立清教学園高等学校
（大阪府）出身
半導体研究室（学部）
研究テーマ「GaAsN 薄膜に
おける少数キャリア寿命定値
要因に関する研究」

その時巡り合ったのが、三菱電機エンジニアリング株式会社です。神戸事業所で電力に関するインフラ設備のシステム設計を行っており、私のやりたいこととマッチしたため、すぐにアポイントを取りました。私が太陽電池について研究していたこともあり、「志望動機が明確で筋が通っている」と言っていただき、無事に内定を掴み取ることができました。

就職活動において大切なことは、開始時期や受けた企業数ではなく、自分が就職した後何をしたいのか、本当にその選択に迷いはないのかをはっきりさせることだと思います。そのきっかけは意外と近くにあるので、焦らず、自分のしたいことを考えてみてください。その答えがきっと、自分自身と向き合い、自分にマッチした企業へと導いてくれると思います。

“豊田工業大学で良かった”と感じたことは？

手厚いサポートをしてくださり、またいつでも相談にのっていただいた学生部の方々や、研究室の山口教授・大下教授は心の支えでした。私のやりたいことと、募集時期の合う企業を一緒に探し、応援して下さったことは、本当に励みとなり、助かりました。

「関連性を持たせたアピールを」

私は在学中に様々な活動に参加してきました。就職活動では、それぞれの活動になぜ取り組み、そこから何を学んだのかをまとめた上で、関連性を持たせた一つのストーリーを作ることが大切だと思います。

私は大学院に進学しているため、大学院卒の採用枠は研究開発や生産技術などが多く、現場でメンテナンスに携わることのできる企業はあまりありませんでした。そのような中、JRは大学院卒でも現場で手を動かして働くことのできる数少ない企業であったため、志望しました。

面接においては、学部3年の時に経験した学外実習について、新日本製鐵株式会社の技術研究所を選んだ理由を、2年の時に海外インターンシップで経験した作業工程改善と、3年の時の大学祭実行委員の経験を踏まえて説明しま



小川 雄大
東海旅客鉄道株式会社
（JR東海）に就職
大阪府立高津高等学校出身
材料プロセス研究室（修士）
研究テーマ「メタノール中での
浸炭焼入れによる鋼の表面改質」

した。さらに、そこで自分に足りないと感じた能力を伸ばすために、研究室配属後は学会発表に意欲的に参加したというように、一見するとバラバラの活動とも捉えられてしまう内容にも、関連性を持たせ、説得力を増すよう心がけました。自分のPR材料を、臨機応変に使い分け、関連性を持たせたアピールをすることが大切だと思います。

“豊田工業大学で良かった”と感じたことは？

全寮制、学外実習や工作実習など、他の大学には無い特長的なプログラムが数多くあることです。また、学生数が少ないため、上級生になるとリーダーを経験する機会が多く、リーダーシップを自然と身に付けることができます。学生間の距離が近いので、就活の情報を共有したり、お互いの長所・短所を指摘し合い、皆で乗り越える環境を作れたことは、豊田工業大学ならではの経験だと思います。

就活の必須ツール：スマートフォンと手帳



友達と就活の予定を共有して閲覧できるスマートフォンは情報交換に大いに役立ちました。一方、面接時には予定をその場で確認し、手帳に書き込む学生が自分以外にいなかったようで、好印象に映ったようです。必要に応じて使い分けると good！

学生部 就職担当者が振り返る 2011年度の就職活動状況

2011年度卒業・修了生の就職活動は、東日本大震災の影響により、一部の大手企業が採用選考活動の開始を4月から6月に遅らせる一方、予定通り4月から開始する企業もあり、学生たちにも混乱と不安の様子が伺えました。また、4月に採用選考活動を開始する企業であっても、6月に開始する企業の結果を待つはくならず、第1志望の結果が出る前に、最終決定を迫られる学生も多かったです。それゆえ、例年になく冷静さと判断力、決断力が求められる大変厳しい1年となりました。しかし、結果として就職決定率100%を達成しただけでなく、これまでに実績のなかったJRやブラザー工業など、幅広い企業・業種への内定獲得につながったことも、2011年度の特長と言えます。また、年々上昇している第一志望への就職率も76%に達しました。

文部科学省発表による大学（学部）の就職率は93.6%（2012年4月1日調査）に改善されたものの、本学にも以前は700社以上あった企業からの求人数が、直近3年間では500社程度まで減少するなど、依然として厳しい状況が続いています。こうした状況の中で、開学以来の就職決定率100%を維持できたことは、実学を重視した教育内容により、確実に実力をつけてきた本学の学生が企業に評価頂いた結果だと考えます。

2011年度卒業・修了生の進路状況について、詳細は次ページ参照

2011年度 卒業・修了生の進路状況

- ・就職決定率 100%達成 (開学以来 100%を維持)
- ・第一志望への就職率 76%

卒業・修了生の進路(就職は内定状況) (名)

	学部		修士課程			博士後期課程		
	社会人	一般	社会人	一般	留学生	社会人	一般	留学生
卒業・修了	10(21)	72(53)	1(3)	32(42)	3(0)	0(1)		2(1)
満了						0(1)		
企業復帰	10(21)		1(3)			0(2)		
就職		25(18)		30(39)				1(0)
進学		47(34)		2(3)				
その他(帰国など)		0(1)			3(0)			1(1)
計	10(21)	72(53)	1(3)	32(42)	3(0)	0(2)		2(1)
	82(74)		36(45)			2(3)		

()は昨年実績人数

一般学生の就職先一覧 (名)

企業名	学部		修士				
	1	2	1	2	3	4	
ソニーイーエムシーエス(株)	3	(株)トヨタコミュニケーションシステム	1	トヨタ自動車(株)	4	トヨタ紡織(株)	1
アイシン・エイ・ダブリュ(株)	2	(株)豊田自動織機	1	三菱電機(株)	4	(株)ニデック	1
(株)アドヴィックス	2	新潟県庁	1	アイシン精機(株)	3	東日本旅客鉄道(株)	1
アイシン九州(株)	1	日産自動車(株)	1	アイシン・エイ・ダブリュ(株)	2	(株)半導体エネルギー研究所	1
アイシン精機(株)	1	日本電産サンキョー(株)	1	(株)デンソー	2	日立オートモティブシステムズ(株)	1
(株)協豊製作所	1	(株)フジキカイ	1	東海旅客鉄道(株)	2	ブラザー工業(株)	1
(株)ジェイテクト	1	(株)フジクラ	1	オムロン(株)	1	(株)ブリヂストン	1
(株)ジーエス・ユアサコーポレーション	1	本田技研工業(株)	1	小島プレス工業(株)	1	ポリプラスチックス(株)	1
チムニー(株)	1	三菱電機エンジニアリング(株)	1	スズキ(株)	1		
(株)中日新聞社	1	矢崎総業(株)	1	ダイキン工業(株)	1		
(株)東海理化	1		1	(株)東郷製作所	1		
計	25		30				

【参考】累計就職先上位20社 (95年～) (名)

1	トヨタ自動車(株)	53	11	ダイハツ工業(株)	11
2	本田技研工業(株)	34	12	豊田合成(株)	10
3	(株)デンソー	33	13	トヨタ車体(株)	10
4	(株)豊田自動織機	33	14	フタバ産業(株)	10
5	アイシン精機(株)	30	15	キヤノン(株)	9
6	アイシン・エイ・ダブリュ(株)	27	16	日本精工(株)	9
7	矢崎総業(株)	21	17	パナソニック(株)	9
8	(株)ジェイテクト	16	18	愛三工業(株)	8
9	三菱電機(株)	14	19	スズキ(株)	8
10	トヨタ紡織(株)	13	20	(株)トヨタコミュニケーションシステム	8

2012年度 入試状況

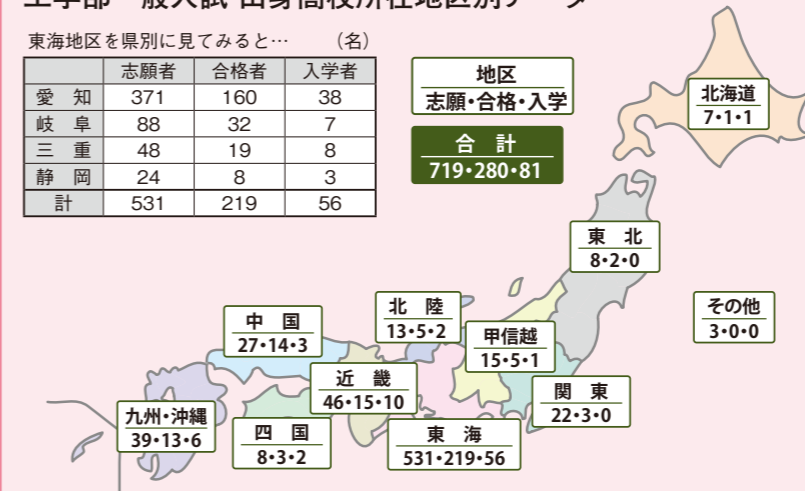
入試結果 (名)

	募集人員	志願者	合格者	入学者	
工学部	一般入試	50	719	280	81
	社会人入試(内編入学試験)	30(若干)	16	13	13
	工業高等専門学校卒業予定者を対象とする編入学試験	若干	5	1	1
	専門高校特別推薦入試(公募制)	若干	9	5	3
	[サイエンス・ラボ体験コース]修了者対象推薦入試	若干	1	0	0
	外国政府派遣留学生特別選抜推薦入試	若干	3	3	3
大学院修士課程	一般入試	若干	0	0	0
	学部3年次対象特別選抜入試	36	58	40	40
	社会人入試	若干	0	0	0
	ダブルディグリー・留学生入学資格審査	若干	4	4	4
大学院博士後期課程	夏季入試	12	1	1	1
	冬季入試	12	2	2	2
	外国人	12	0	0	0
	追加入試	12	0	0	0

工学部一般入試 出身高校所在地別データ

東海地区を県別に見てみると... (名)

	志願者	合格者	入学者
愛知	371	160	38
岐阜	88	32	7
三重	48	19	8
静岡	24	8	3
計	531	219	56



【入試担当者が語る 2012年度入試結果】
「国立大学」「地元」というキーワードが浸透している近年の受験動向にあって、本学は県内他大学と比べ、全国からの受験生の入学率が高いという特長があります。大学新卒者の厳しい就職状況が報じられる中、産学一体となった実学教育や高度な研究環境で「就業力」を身に付け、就職決定率 100%を毎年達成している点などが、全国の受験生や保護者の皆様から関心を寄せていただいている要因の一つになっていると考えます。

オープンキャンパス日程

オープンキャンパスでは、本学の特長や入試についての説明を行います。保護者の方も一緒にご参加いただけます。駐車場もあり(9月は利用不可)、参加費は無料です。予約が必要な日程もありますので、事前にご確認ください。さらに今年度は7月に保護者の皆様を対象とした説明会も開催致します。

Schedule

8/25(土)・8/26(日) 11:00~16:30

11:00-16:30の1日コースです。予約が必要です(昼食あり)。体験授業とキャンパス見学、在学生との相談会もあります。参加ご希望の方はHPをご覧ください(詳細は6月下旬頃に公開予定)。

9/15(土)・9/16(日) 13:00~14:30

13:00-14:30の開催です。予約は不要です。大学祭と同時開催のため、在学生のパワーが感じられ、特設ステージや模擬店などもあり、にぎやかな豊田工業大学をお楽しみいただけます。※大学祭で混雑するため、ご来場は公共交通機関をご利用ください。

保護者対象説明会 7/21(土)

場所:豊田工業大学 時間:10:00~12:30(12:30~学食体験) 内容:大学説明、入試説明、学生生活説明、学内見学など

※予約が必要です。詳細はHPをご覧ください。

■お問い合わせ先:学生部 入試グループ

TEL:0120-3749-72(フリーダイヤル) E:nuyushi@toyota-ti.ac.jp URL:http://www.toyota-ti.ac.jp/juken/open/index.html

2012年度 入学式

～目指せ、次代の豊田佐吉を～



2012年度入学式が4月2日に挙行政され、学部100名、大学院修士課程48名、同博士後期課程3名の計151名が入学した。そのうち、本学と海外の連携大学の双方で修士学位を取得できる「ダブル・ディグリー・コース」には、台湾より4名の学生が入学した。



榊裕之学長



柏原正則常務理事

初めに榊裕之学長は「本学は、自動織機発明のために幾多の困難に立ち向かい、これを克服してきた豊田佐吉翁の言葉『研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし』を建学の理念として掲げている。この言葉には、様々な困難を乗り越え、生涯をかけて研究と創造に打ち込み、社会に貢献してきた佐吉翁の深い思いが込められている。本学での学びを通じ、日本の産業に留まらず、世界の工学を拓くリーダーになるための基盤を築いてほしい」と、歓迎と期待のメッセージを贈った。



続いて、学校法人トヨタ学園 柏原正則常務理事の祝辞は英語で始められた。その思いとして、有名企業における外国人採用の増加を例に挙げ、「これからは日本人だけではなく、海外の優秀な人材との競争が始まる。大学時代は、その重要な準備期間となるので、大学としても様々な国際体験をできるように支援を行っている。その一つとして、学内に国際交流スペース i Plaza を開設したので、これらの施設・制度を活用してぜひ国際感覚を身に付けてほしい」と説明。「失敗を恐れずに思い切り若いエネルギーをぶつけ、悔いの無い大学生活を」とエールを贈った。

歓迎の挨拶は、在学生を代表して学生会会長の山崎一透君（愛知県立西尾高等学校出身）が「大学生活は自由である一方、自らの行動に責任を持たねばならない。大学生としての自覚と目的意識を持ち、頑張ってもらいたい」と述べた。

新入生代表として、学部から外山洋太君（愛知県立知立東高等学校出身）、大学院から酒井英匡君（私立名城大学附属高等学校出身）が、それぞれ誓いの言葉を述べ、新入生たちはやる気と期待に満ちた凛々しい表情を見せていた。



学部を代表して宣誓する外山洋太君



学長に宣誓文を手渡す酒井英匡君



入学式翌日、新入生はトヨタテクノミュージアム産業技術記念館（名古屋市西区）を見学。同館は、豊田佐吉翁の飽くなき「研究と創造の精神」と、自動車の国産化に挑んだ佐吉の息子・喜一郎氏が情熱を注いだ「モノづくり」の大切さを伝えることを目的として設立されている。

同館の見学を通じ、「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」という建学の理念の意味と、本学に今なお根付く佐吉翁・喜一郎氏ら先人たちの発明・創造・挑戦の精神を体感してもらうことが狙い。

7年ぶりにカリキュラム改訂 ～「士（サムライ）型」人材の育成を目指す～



現代社会では、工学が手を打つべき課題が山積し、さらに日本が今後も国際競争の中で技術立国であり続けるために、創造性を開花させることが重要視されている。

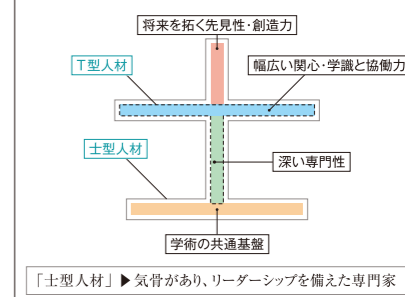
本学では、自分なりの方向に突出し、さらには自分という型を破り、創造性に富み、次世代のモノづくりをリードでき

る人材を育てたい、そのような思いから、7年ぶりに学部の教育課程を全面的に改定、本年度の新入生より適用を開始した。

新カリキュラムにおける基本方針は「士（サムライ）型」人材の育成。豊かな創造性により現代社会に立ちあがるさまざまな課題への解決策を提案、実行できる人材育成を目指す。

「士（サムライ）型」人材とは

工学の分野では従来、人材育成の基本方針として「T型人材」が理想と言われてきた。横棒は「幅広い関心・学識と協働性」、縦棒は「深い専門性」を表している。これに対し本学では、上記に「学術の共通基盤」という底の横棒、「将来を拓く先見性・創造力」という上の突起を加え、「士型人材」という新たな人材育成方針を打ち出すことにした。



新カリキュラム 5つの特長

1 ハイブリッド型履修と主専攻・副専攻分野の履修

1、2年次では工学基礎となる専門科目を横断的に学び、3年次以降は「機械分野」「電子情報分野」「物質工学分野」から一つの分野を「主専攻分野」として選択し、専門的知識を養う。さらに、別の分野での高度な知識習得を目指す「副専攻分野」の履修も可能とする。

2 導入教育・キャリア教育の充実

産学連携強化などにより、工学に対する意欲と学修の動機付けを狙いとした教育科目（工学スタートアップセミナー、現代工学概論など）を充実させ、次世代の産業リーダーを育成する。

3 課題発見能力・創造力の育成にむけた取り組み

モノづくり、工夫する楽しみを知ることから始め、段階的に専門知識の活用、独創的な先端研究につなげていき、課題発見能力や創造力を養う。企業から招いた各分野の最前線で活躍する講師の講義や、創造力・チームで働く力を養うことを目的としたイノベーションコンテストなど、ユニークなプログラムを実施する。

4 教養教育の充実

広い視野で社会の中での自分の立ち位置をしっかりと認識し、問題意識をもって社会貢献できる人材を育成するために教養教育の充実も重視。自ら考え、それを表現できる能力（文章力、ディベート力）の養成他、経済学、哲学、国際関係、技術者倫理などの知識を習得する。南山大学、愛知大学や放送大学とも連携し、受講機会の充実を図る。

5 外国語教育の充実

英語授業の充実のみならず、国際交流の拠点 i Plaza でのイベント参加、英語体験（英語ボランティア、スピーチコンテスト）など、入学から卒業まで継続的かつ積極的に英語を学ぶことのできる制度（英語 Step-UP Point 制度※）により、実戦で使用できる英語力を身につけることを目標とする。また、ドイツ語や中国語の履修も可能。

※英語 Step-UP Point 制度（E-SUP）とは

- ① 入学以降に取得した TOEIC (IP) のスコア、i Plaza でのイベントや各種英語演習への参加などを通じ、ポイントを獲得・蓄積
- ② 100ポイント以上の獲得が卒業要件
- ③ 100ポイント以上を獲得した学生には、到達ポイントに応じた特典を付与

開学 30 周年 記念講演会を開催



会場の様子



挨拶する榊裕之学長



瀧本正理事長

5月30日に名古屋マリオットアソシアホテルにおいて、開学30周年を記念した講演会を開催した。本学園の理事・評議員でもあるトヨタ自動車株式会社名誉会長 豊田章一郎氏をはじめとするトヨタグループなどの役員、関係者や一般からの招待者約450名が参加した。

講演会に先立ち、学校法人トヨタ学園瀧本正理事長は「次世代を切り拓く人材の育成、時流に先んじた先端研究への挑戦に全教職員が一丸となって取り組んでいきたい」と述べ、榊裕之学長は「創造性と国際的対応力をさらに高めていきたい」と挨拶した。また来賓として、文部科学省大臣官房審議官の森本浩一氏が豊田工業大学 これまでの歩み

1981年4月	わが国初の社会人大学として開学
1984年3月	大学院修士課程設置
1993年4月	学部・大学院に一般学生の受け入れを開始
1995年3月	大学院博士後期課程設置
2003年6月	南山大学との大学連携協定締結
2003年9月	米国シカゴに大学院大学 "Toyota Technological Institute at Chicago (TTI-C)" を開学
2010年4月	愛知大学との連携協定締結
2011年1月	開学30周年

の過剰な不信感が増す現状は危惧すべき状態だ」とした上で、「これからのよい専門家とは、一緒に考えてくれる人であり、その専門的知性は私的ではなく、公共的に使用することが重要だ」と説いた。



横浜薬科大学長 江崎玲於奈氏

江崎玲於奈氏は「新しい世界を拓くリサーチフロンティア」と題し、「エサキダイオード」の発見や、「人工超格子」の研究など自らの研究の歩みを振り返りつつ、科学技術ひいては文明の発展には、「人の心」と「創造力」が不可欠であるとし、若い段階で創造力を磨くことの重要性を強調した。

引き続き、関係者で行われた懇親会では、トヨタ自動車株式会社名誉会長 豊田章一郎氏が「豊田工業大学のさらなる発展を期待したい」と挨拶。講演者をはじめ本学に関連する約150名が懇談の様子が見られた。



トヨタ自動車株名誉会長 豊田章一郎氏

また、本記念講演会に参加するため、豊田工業大学シカゴ校 (TTI-C) から Stuart A.Rice 暫定学長も来日。翌日には本学に訪し、研究や教育の取り組み状況を見学した。昨年10月に開設した国際交流スペース i Plaza にも足を運び、「豊田工業大学が素晴らしい環境にあることが良く分かった。今後一層、学生、教員の往来を活性化させたい」と語った。



i Plaza を見学する Stuart A.Rice TTI-C 暫定学長 (左)

「講書始の儀」榊裕之学長が進講者に

天皇、皇后両陛下が年頭に学術分野の第一人者から講義を受けられる「講書始(こうしょはじめ)の儀」が1月10日に皇居・宮殿で行われ、榊裕之学長が進講者を務めた。皇太子殿下や秋篠宮ご夫妻ら皇族方も列席された。

榊裕之学長は「半導体エレクトロニクスの進歩と電子の量子的な制御」と題する講義を行った。レーザーやトランジスタなど半導体進歩の経緯と最新の研究開発状況を紹介し、半導体の中を走り回る電子の数や動きを制御し、エレクトロニク

スに生かす試みについて述べた。そして、半導体技術はITにとどまらず、医療や環境、エネルギーの分野にも広く発展し、人類が直面する主要な課題解決や緩和に貢献することを説いた。

中部地区ナノテク総合支援 公開講演会開催



ポスターセッションの様子

2007年度より5年間にわたり、文部科学省の支援を受け、分子科学研究所、名古屋大学、名古屋工業大学と連携して、中部地区のナノテクノロジー総合支援拠点を形成し、ナノテクノロジー分野の研究開発支援に取り組んできたことの締め

くくりとして、3月30日に公開講演会を開催。69名が参加した。

講演では、山口真史特任教授と、学外から株式会社 ESPINEX 代表取締役の中野圭洋氏を招き、それぞれ太陽光発電とナノ・バイオテクノロジーの研究開発状況について説明を行った。併せてシリコン太陽電池や半導体ナノ構造などをテーマとしたポスターセッションも開催した。

会場には企業関係者の他、高校生の姿もあり、関連分野について熱心に質問する姿が見られた。

ミニ情報

2月下旬より、正門に新たに看板を設置。来学される方にとって、正門位置がより分かりやすくなることを狙いとしている。



人事紹介

【退職】 2012年3月31日付けで下記の教員が定年退職を迎え、4月1日付けで特任教員に就任した。



三田 誠一 特任教授
(情報通信研究室)



原 民夫 特任教授
(X線レーザー・プラズマ工学研究室)

原民夫教授、三田誠一教授の最終講義が3月9日に開講され、教職員、学生をはじめ、卒業生、企業関係者ら交流のあった計73名が参加した。退任教員による最終講義は初の試み。両教授は、自身の研究テーマを分かりやすく解説し、講義終了後は参加者からの盛大な拍手が送られた。



会場は参加者でいっぱい

【新任】 ^{リュウ セイ} Zheng Liu (劉 征) 教授 <43歳> (知的情報処理研究室)



<経歴>

2000-2001年	シンガポール南洋理工大学 Research Fellow
2001-2002年	カナダ国立研究委員会 Visiting Fellow
2002-2012年	カナダ国立研究委員会 Research Officer
2012年4月	本学教授に着任

<主な研究分野>

複数のセンサや情報源から情報を抽出する技術、およびオブジェクトや環境の知覚改善のための情報融合に関する研究を行っている。また、信号および画像処理、パターン認識、マシンビジョンの技術を推進していくことも課題としている。

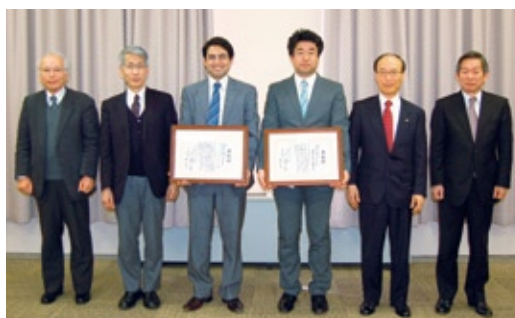
受賞

《学内》

豊田奨学基金 研究賞（研究奨励賞）

将来の研究進展が大いに期待される萌芽的研究を行った教員およびポストドクトラル（PD）研究員に対し、その業績の顕彰、研究推進の奨励を目的として授与する。

受賞者	研究テーマ
鈴木 健伸 准教授 (光機能物質研究室)	フォトニクスガラス材料の基礎的研究と新素材の開発
Chunzhao Guo 助教 (情報通信研究室)	車知能化に向けての道路面の高精度認識技術の確立
Hossein Tehrani Nik Nejad PD研究員(情報通信研究室)	形状可変モデルの拡張とトラッキング技術の統合による高精度車両認識技術および自律走行技術の構築



左から田中副学長、榎学長、Hossein PD、鈴木准教授、瀧本理事長、柏原常務理事

豊田奨学基金賞

学業成績・人物ともに特に優秀な本学の卒業生および修了生に対し授与する。

	受賞者	研究室
学部	三浦 正義 (愛知県立旭丘高等学校出身)	機械システム分野 熱エネルギーシステム研究室(学部4年)
修士	林 義之 (私立愛知産業大学三河高等学校出身)	材料プロセス研究室(修士2年)

※ 豊田奨学基金

学生の奨学金、その他の教育研究に対する助成を行うことを目的に、トヨタグループ各社からの寄付金をもって設置された基金



榎学長から表彰される Guo 助教

《学外：教員》

受賞名	受賞者	受賞理由
永井科学技術財団 永井学術賞	古谷 克司 教授 (機械創成研究室)	「圧電アクチュエータを用いたアザラシ型精密位置決め機構の開発」に関する研究において、多大な成果を収めたため
アルフレッド・スローン財団 2012 Sloan Research Fellows	Assistant Professor Dr.Jinbo Xu (豊田工業大学シカゴ校(TTI-C))	computational molecular biology分野において、独創的な研究を行ったため

《学外：学生》

各学会から、人格・学業ともに優秀であると認められた者に授与する。

受賞名	受賞者	研究室
日本機械学会島山賞(学部)	三浦 正義 (愛知県立旭丘高等学校出身)	機械システム分野 熱エネルギーシステム研究室 (学部4年)
日本機械学会三浦賞(修士)	林 義之 (私立愛知産業大学 三河高等学校出身)	材料プロセス研究室 (修士2年)
電気学会東海支部長賞	木村 文彦 (私立鶯谷高等学校(岐阜県) 出身)	制御システム研究室 (学部4年)
計測自動制御学会 中部支部賞	池田 朋之 (豊田工業高等専門学校出身)	電磁システム研究室 (学部4年/ 小島プレス工業株式会社)
日本セラミックス協会 東海支部学術研究者発表会 優秀講演賞	三好 祥平 (岐阜県立加納高等学校出身)	光機能物質研究室 (修士2年)



左から池田朋之君、三浦正義君、木村文彦君、成清教授、三好祥平君、林義之君

編集後記

今年度から、創造性を伸ばすことを狙いとした新しいカリキュラムがスタートしました。4月に入学した新生が、今後どのような成長を見せてくれるのか、その様子も本誌で取り上げていきたいと思ひます。